

## 明舞中央センター地区の建て替え始動へ

### 県が事業スケジュール案を発表、2年後に1期完成

兵庫県は10月11日、明舞団地の中央センター地区の建て替え計画を地元住民組織などに説明した。明舞ひまわりのある明舞第一センタービルはじめ、大丸ピーコックの入っているビルと業務施設が入っている松が丘ビルの3つのビルを建て替え、明舞プラザは耐震補強と改装工事を行う計画で、2011年（平成23年）夏の完成をめざす。

明舞中央センターの再整備計画はこれまでも、昭和60年や平成7年にも発表されていたが、いずれも実現をみないままに終わっていた。しかし、今回は「不成功に終われば今後再整備はあり得ないだろう」との決意で、兵庫県住宅供給公社は昨年度に兵庫県が策定した「明舞団地再生計画」を受け、基本的な再整備の方針をまとめた。

事業スケジュール案は、来年（2008年）3月に新施設の参入事業者を決めるコンペを実施、夏ごろに事業者決定、1期オープンは2年後の2010年夏、2011年夏には2期工事を完成するという。総事業費は数十億円の見通し。

明舞まちづくり推進協議会はこれを受けて意見交換の会をもち、各構成員のアイデアを1月中に提出、コンペへ反映させることになっている。5年目を迎えて順調に事業を展開している明舞ひまわりも、ここにきて再生計画を見据えて将来の事業計画を練るという緊急課題の検討に迫られている。

## 独居高齢者が「生活体験交流会」

明舞まちづくり広場

26名参加、胸のうち語り合う

連れ合いに先立たれたり、長期療養で独居を余儀なくされている高齢者を外に連れ出して元気をつけようと、明舞ひまわりが企画した「生活体験交流会」が10月14日開かれた。WAM（独立行政法人福祉医療機構）助成事業の一つで、「独りになった時、どう乗り越えてきたか。とくに、食生活をどう切り抜けてきたかを話し合うことで、元気をもらったり、あげたりしましょう」と呼びかけた。

参加した26名は、男性料理教室の受講生が作ったちらしずしをいただき、和やかな雰囲気の中で常日ごろ語らざりきたことが堰を切って出るように、いままでのきびしい生活体験が語られた。戸惑いながらやっと独り暮らしに慣れてきたHさん、こまめに魚の味噌漬けまでつくり寂しさを乗り越えているNさんなど男性の話の聞きながら、女性の独り暮らしのMさんやAさんは「男性に刺激をうけました」とちょっぴり反省。温かい雰囲気のなかで、だれもがホンネで語りあえる会になった。

### 「うたごえ広場」のボランティア活動に参加して

毎月第2土曜日の午後1時半から明舞まちづくり広場で開かれている「うたごえ広場」の喫茶サービスは、明舞ひまわりの地域活動のひとつ。横山さんのコーディネート、大西さんが点てるコーヒーの香り、米村先生のアコーディオンと軽妙なトーク、懐かしい曲の数々、参加者も増え廊下に溢れんばかりで、不足するイスを1階のひまわりから補充するのも大変なほどである。それでも、通りがかりに足を止めた方には思わずお誘いしてしまう。歌っている幸せそうな参加者の顔を見ていると、つい声をかけてしまう。私自身がボランティアであることも忘れて、楽しんでいきます。（大蔵谷清水 N・O）

### これからの予定

#### ◎新春餅つき大会

1月6日(日) 10時～

明舞センター1階ピロティ

#### ◎男性料理講習会

1月27日(日) 10時～

朝霧コミュニティセンター

#### ◎講演会「福祉のまちづくり」

2月10日(日) 14時～16時

講師：真辺一範さん

松が丘ビル3階中会議室

# アンクルオーケストラ、参加者みんなで演奏に参加

## 明舞クリスマスコンサート 200人が感動のるつぼ

歳末の明舞地域に定着した「ふれあいクリスマスコンサート」は、今年も12月9日の日曜日に松が丘ビル3階ホールで開かれた。3年目の今回は明舞まちづくりサポーター会議主催、明舞まちづくり推進協議会、明舞連合自治協議会、NPOひまわり会が後援し、ホールは満員の盛況だった。

今回は、とくに地元の南多聞台にある園芸療法小規模作業所「プレゼントガーデン」がNPO法人の資格を取得したのを契機に地域活動に仲間入りするという意味もあり、竹を用いたインドネシアの管楽器演奏というめずらしい「アンクルオーケストラ」を中心に「オカリナアミカ」のオカリナ演奏、「ダンスエヴァ」のタップダンス、最後にみんなでクリスマスソングを歌うというプログラムだった。

「アンクルオーケストラ」の出演者の一途な演奏態度に思わずひきこまれ、参加者全員に配られた楽器で音階学習から「ドレミの歌」の演奏で会場は最高潮に達し、その音色の美しさに感動し涙ぐむ人さえあった。ステージとフロアが一体となった雰囲気がかもし出された。

明舞中央病院に長期療養中のMさんが主治医の許可を得て車椅子で参加、3階までの階段の昇降は学生ボランティアが担った。ひまわりのボランティアは参加者に手づくりのクッキーをプレゼントした。コンサートというよりは「地域のフェスティバル」の趣きでもあった。



### コンサートに参加したボランティア学生から

#### ◇団地再生にける熱い想いに触れて

大変素敵なクリスマス会に参加させていただき、ありがとうございました。日常生活ではあまり出会うことのない幅広い音楽を鑑賞させていただき、立場を忘れ、純粋に楽しんでしまいました。

地元住民の方々や地域を活性化しようと企画された方々の熱い想いを身をもって感じる事ができ、明舞団地の魅力や可能性に触れることができました。いただいた「熱い想い」という素敵なプレゼントを今後も大切にしていきたい。(神戸大学3回生・波部義広)

#### ◇地域の人たちのつながり深めたコンサート

朝霧駅から明舞センターへ行くまで、道で会う人はいずれも年配の方が多いなと感じた。マンションは錆びた部分が見られ、人とともに建物も歳をとったのだろうかと感じました。

コンサートは地域の住民が集まり、そこでまたつながりを再構築する役割をもっている。そんな素敵なコンサートに関わることができたことを喜ばしく思います。(神戸大学1回生・松井大輔)

### 虚弱高齢者への食事サービス 行政の姿勢を問う！

#### 山根金造市議招きボランティア研修会

9月の明石市議会一般質問で「明石市における食事サービス事業の展開」について市の対応を質問した山根金造議員を招き11月28日、虚弱高齢者に対する食事サービス事業のあり方について、明舞ひまわりのボランティア研修会を開いた。

録画DVDで質問と答弁を確認した後、山根議員から話を聞いた。質問に対する反響は、他の議員からかなりの賛同を得られ、担当職員にもある程度の理解がみられたが、トップの市長答弁からはこの問題について全く無理解で認識不足であることが浮き彫りにされ、ボランティアたちからは怒りの声が湧き上がった。虚弱高齢者に対する食事は、方針を持たない現在の明石市のやり方では到底対応できないところまで事態は進行していることを認識して、早急に対応を考えるよう根強く働きかけることが必要だと話し合われた。

